

# 生物化学専攻/GCOE セミナー(日時変更)

---

演者： 三戸 芳子 博士 (Yoshiko Mito, Ph.D.)

Research Fellow

Harvard Medical School/ Massachusetts General Hospital  
Boston, Massachusetts, U.S.A.

演題： 医療における遺伝学  
ー染色体診断を例にー

日時： 2010年11月19日(金) 10:30～11:30

場所： 理学部3号館 416号室

---

生命科学の基礎の授業で私たちは転写の仕組みや代謝の経路、ヘモグロビンの構造を学びます。ところが、実際にこれらの因子の機能が損なわれて起こる遺伝子疾患について学ぶ機会は比較的少ないように思います。

遺伝子の疾患と言ってもさまざまです。がんを例にとると言え、メンデル遺伝に従う家族性のものから生殖細胞における突然変異に起因する場合、または体細胞の一部に限られた遺伝子変異によるものまで広範囲にわたります。また最近では、古典的な単一遺伝子疾患だけでなく、糖尿病などの多因子疾患についても活発に遺伝学的研究が進められています。このように蓄積された遺伝学の知識は幅広い疾患の医療に確実に活かされています。

今セミナーでは、「医療における遺伝学」と題し、遺伝子疾患の医療（診断・予後・治療・予知／リスクアセスメント等）について紹介します。なかでも染色体診断に焦点を当て、実際の先天異常や不妊、がんなどの症例において、遺伝学的知識がどのようにしてより質の高い医療サービスにつながっていくのか議論します。今、遺伝医療は、高解像度マイクロアレイや大量並行シーケンスなどの技術革新によって大きな転換期を迎えようとしています。これに伴い医療保険や政策、倫理面での調整が必要となることも予想されます。このセミナーが、遺伝医学の分野により興味を持っていただける機会になれば幸いです。

(世話人：山本正幸 24386)